

| | | | |
|----------------|--------------------------------|------|------|
| グループ名 ・代表者名 | 田中 雄二 (特定非営利活動法人表浜ネットワーク) | 助成金額 | 40万円 |
| 連絡先など | info@omotehama.org□ | | |
| 助成のテーマ | 砂浜の消失が何をもたらすか？ウミガメが教える砂浜の自然の役割 | | |

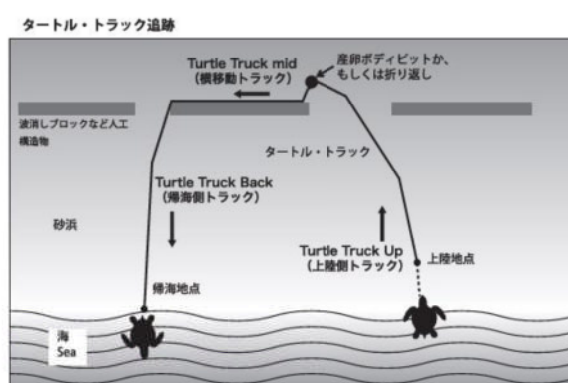
【調査研究・研修の概要】

・アカウミガメが産卵のために砂浜に上陸してから海に戻るまでの行動を GPS 機器で記録したデータを蓄積し、分析する。具体的には、アカウミガメが重い身体を引きずって動くことで砂浜に残された軌跡（タートル・トラック）に沿って、調査者が GPS 機器を使用しながら一定の速度でゆっくり追跡することで GPS データとして記録している。

・表浜海岸のような開放型の広域な砂浜の場合、年度ごとに上陸場所には傾向や偏りが生じている。未だその要因は不明ではあるが、様々な要因によってアカウミガメが産卵場を選択しているように見受けられる。この選択行動を記録することは、アカウミガメの生態を知る情報として重要であるとともに、砂浜環境の状況と変化を研究する上でも貴重なデータである。

【調査研究・研修の経過】

- ・年間を通じて砂中温度を計測し、記録した。
- ・2014年5月10日から8月9日まで、早朝巡回調査を実施し、のべ67回の上陸行動を記録した。このうち産卵は53ヶ所、未産卵は14ヶ所だった。
- ・2014年11月に開催された日本ウミガメ会議2015奄美大島会議で「表浜海岸における哺乳類による食害報告」、「保護活動の思わぬ負の連鎖、陥りやすい過剰な関与」をテーマとする報告を行った。



【今後の展望など】

- ・年間砂中温度計測は計測器が台風に流されることなく、無事に回収ができた。温度調査は年傾向が明確に表れ、アカウミガメのふ化にもっとも顕著に影響すると考えられる。
- ・産卵位置情報は調査域の9割が確認できた。特にアカウミガメの産卵を促す為の自然砂浜再生事業地の上陸減少の要因は不明である。今後も調査を継続していく。
- ・産卵成功のタートル・トラックでは、波消しブロックなど構造物が露出している場所では、障害物を避けるために移動距離が長くなるなどの負荷傾向が認められた。産卵失敗の場合は帰海の判断が早い傾向がみられた。
- ・産卵後の卵の食害調査としては、産卵の保護を目的とした活動において、移植などの過剰な関与が多く見受けられ、かえって食害を誘発している可能性もある。今後はその把握調査も必要である。

| 会計報告書の概要 (金額単位: 千円) | | | 充当した資金の内訳 | | |
|---------------------|--------------|------|-------------|-----------|------|
| 支出費目 | 内訳 | 支出金額 | 高木基金の助成金を充当 | 他の助成金等を充当 | 自己資金 |
| 旅費・滞在費 | 調査及び学会参加旅費など | 268 | 255 | 0 | 13 |
| 機材・備品費 | 調査備品など | 82 | 78 | 0 | 4 |
| 印刷費 | 報告書印刷費など | 68 | 68 | 0 | 0 |
| 合計 | | 417 | 400 | 0 | 17 |

参考文献 (ウェブサイトや書籍、成果物など)

- ・2014年度アカウミガメ調査アーカイブ <http://www.omotehama.net/Report/2014/cat7/>
- ・NPO 法人表浜ネットワーク <http://www.omotehama.net/content/>
- ・日本ウミガメ協議会 <http://www.umigame.org>